

山岳遭難の「いま」

魅力的である反面、危険性も持つ

登山は自然の中で行われる幅広いスポーツで体力や能力に応じて多様に楽しむことができる発展性のあるスポーツです。自然の中で行われるということが、その魅力を高めている反面、危険性も持ち合わせたスポーツとなっています。

GWに相次いだ事故

5月上旬に北アルプスで相次いだ遭難事故は記憶に新しく、天候が急変する山の危険性をあらためて見せつけた格好になりました。計10人の犠牲者のうち、8人が60歳以上であり、中高年登山者の事故でした。

全国的に増加傾向

警察庁がまとめた平成22年度山岳遭難発生状況によると、遭難者数は約2400人、昭和36年度以降、過去最高となり、増加傾向にあると分析しています。

目的別に見ると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む）、山菜・キノコ取りが多く全体の9割を占めます。また、態様に見ると道迷い、滑落、転倒が多く全体の7割を占めています。

静岡県警察本部の報告では、昨年発生した県内の山岳遭難事故は79件あり、前年比1件増加、過去10年間で2番目に多い件数でした。

なぜ起こってしまっただのか

「道迷い」と「中高年登山者」が山岳遭難の多くを占める

空前の登山ブーム

警察庁によると、平成22年の態様別山岳遭難者数の割合は「道迷い」が40・5%と最も多く、滑落、転倒、転落、病気、疲労の順に続く。そして、最近の登山ブームを支えているのが推計約500万人いる山や自然を楽しむ人のなかでも、65%以上を占める中高年齢者であるといわれています。また、平成22年の山岳遭難者約2400人のうち約76%を40歳以上が占め、中でも55歳以上は約60%を占めます。

本町ではどうなのか

平成23年は4件と前年と

比べて1件増加しています。22年11月には沢口山（1425㍎）で死傷者はなかったものの、5人の大学院生らが遭難する事故が起きました。島田警察署や県警山岳遭難救助隊、島田市消防本部などが2日間捜索に当たるなど、大きな事故になりました。

この事故では、悪天候（雨が降っており、山の中腹まで霧がかかっていた）による「道迷い」と「入念な準備をしていなかった」ことが大きな要因でしたが、悪天候の山には登らないという「判断」と「入念な準備」があれば、防げた事故です。ほとんどの遭難事故は防げる事故なのです。

特集 山岳遭難を防ぐ

では、防ぐためには どうすれば良いのか

政府広報によると遭難を防ぐために3つのポイントを挙げています。

安全登山のポイント(1)

登山の安全は「登山計画」から！

- ▽体力や技術を考慮して時間にゆとりを持った、無理のない登山計画を
 - ▽自分の技量・体力に見合った山や登山コースを選ぶこと。
 - ▽日が沈むと山道は暗くなり危険が増すため、明るいうちに下山できるように、登る時間と下山時間を考える。疲れ過ぎないように適宜休憩を。
 - ▽登山計画を立てたら「登山計画書（登山届）」にまとめる。
- 登山計画書にまとめる内容**
- ▽パーティーの名称及び所在地
 - ▽緊急の連絡先及び氏名
 - ▽登山の目的
 - ▽目的の山域や山の名称
 - ▽登山の期間
 - ▽日程・行動予定（コースを簡単に地図化した概念図）
 - ▽参加者名簿（氏名、生年月日、住所、緊急連絡先、血液型など）
 - ▽装備や食糧などのリスト（ザック・テント・雨具等の色も）

▽持参する通信手段（携帯電話番号、無線のコールサイン）など

安全登山のポイント(2)

情報収集や装備を万全に！

- ▽危険回避のシミュレーション
見える危険と見えにくい危険が重なり合って遭難事故は起きる。
見える危険：天候の急激な悪化、岩場・ガレ場などの足元の悪い山など
- ▽見えにくい危険：目的の山の研究不足、装備・食糧の準備不足、日程・ルートに無理がある、事前の体力トレーニング不足と健康管理不足など
- ▽登山地域の情報（初めての山にはガイドを付けるなど工夫を）
- ▽行動計画に見合った食糧・装備をそろえる（荒天時を考慮して非常用の確保）
- ▽気象情報、気候の確認（山の天気は変わりやすい、日没に注意）

安全登山のポイント(3)

山に登る前に

「登山計画書（登山届）」の作成と提出を！

登山計画を立てたら、「登山計画

書（登山届）」に行動予定をまとめ、一緒に登山する人と共有しましょう。また、家族や職場の同僚など周囲の人々にも、行動計画を伝えておきましょう。

登山計画書の提出先

- ▽家庭、クラブ（山岳会）、職場、学校など
- ▽登山する管轄の県警本部地域課、警察署、交番、駐在所など
- ▽登山口の登山届ポストなど

個人情報に記載されているなどの理由で提出するのを考えることになる場合は、ご家族や友人に計画書を託してください。

この登山計画書は、万一、遭難事故が発生した場合、捜索の手がかりとなります。

これまでも登山計画書を提出したおかげで、命拾いをしたという例が数多くあります。

登山計画を見直す機会にもなり、遭難を防止することにもつながりますので必ず行いましょう。

◆登山計画の問い合わせや相談は静岡県警察本部地域課「静岡県警察山岳遭難救助隊」まで

☎054(271)0110